

(1) 策定の趣旨

IoT やビッグデータ、AI 等をはじめとする技術革新が一層進展し、いわゆる超スマート社会（Society5.0）の到来から、社会や生活が急速にかつ大きく変化し、複雑で予測困難となってきています。一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められています。

また、世の中全体のデジタル化・オンライン化が大きく促進しており、学校教育においても、学びを保障する遠隔教育・オンライン教育の広がりとともに、教育データの利活用等を含め、教育活動におけるデジタルトランスフォーメーションがより一層加速しています。これからの学校教育を支える基盤的なツールとして、ICT はもはや必要不可欠なものであることを前提として、学校教育の在り方を検討していくことが必要です。

このような時代の中で、児童生徒が学ぶことの意義を実感でき、一人一人が資質・能力を最大限に伸ばすことにより、これからの社会を生き抜く力を身に付けることができるよう、学校教育の情報化に係る教育分野全般に関する施策の方向性を定め、学校教育の情報化の更なる推進を図ることを目的として本指針を策定しました。

(2) 本指針の位置付け

本指針は、「第4次四日市市学校教育ビジョン」の施策の重点「ICTの効果的な活用（四日市市 GIGA スクール構想）」との整合性を図りながら、「学校教育の情報化の推進に関する法律」に基づく、国の「学校教育情報化推進計画」を踏まえ、本市における学校教育の情報化推進に関する施策についての計画を包括するものとしています。

今後の学校教育の情報化を進めていくうえで、すべての市立小中学校及び教育委員会が取組の理念や具体的施策を共有することを目的として策定するものであり、本市学校教育ビジョンにおける GIGA スクール構想実現のための、具体的な取組の方向性を示すものとして位置付けます。

(3) 教育DXの基本的な考え方

「DX」とは「Digital Transformation (デジタルトランスフォーメーション)」の略です。

英語圏では、「Transformation」は「X-formation」とも表記されることもあり、その頭文字を取って「DX」と略され、下の図の3つの段階があります。

GIGA スクール構想の推進により、デジタルは日常的なものとなり、第1段階「電子化 (デジタルイゼーション)」として、学校における ICT 環境は着実に整備されつつあります。

これからの社会においては、紙と鉛筆を使うように、ICT を当たり前を使いこなしていく必要があります。教育においても、デジタルを積極的に活用しながら、学習者である児童生徒が主役となる学びへと質的転換を図るため、様々な教育データを利活用し、学習や校務の効率化や最適化を進める段階へと移行していきます。

具体的な教育データとしては、児童生徒の学習状況、成績、出席状況、アンケート結果、教員の指導方法、教材の効果など、多様なものがあります。

「教育データの利活用」をさらに進めることにより、例えば、児童生徒にとっては自分に適した教材や学習方法を選べること、教員にとっては支援が必要な児童生徒を早期発見したり、受けもつ児童生徒に適した教材を見つけたりするなど、「誰一人取り残されない、公正に個別最適化された学び」の実現を目指していきます。

